

# 「おいしいのぼうけん」

人形劇団 ほんわかシアター

作/ふるたたるひ・たばたせいいち（童心社刊）

脚本/加藤K子 演出/本若幸多

音楽/シモシュ 人形美術/しみずちか

舞台美術/長谷川真代（人形劇団むすび座）



## ◆ものがたり

さくらほいくえんには、こわいものがふたつあります。ひとつはおしいれで、もうひとつはねずみばあさんです。お昼寝前にミニカーのとりっこでけんかをした、さとしとあきは先生に叱られておしいれに入れられてしまいます。

そこで出会ったのは

地下の世界に住む怖ろしいねずみばあさんでした。

手をつないで、逃げる二人。

「フッフッフ さあ、あやまったら、この世界から出してやる」

「ぼくたち、わるいことしてないもん。

ごめんなさいなんていうもんか！」

「なんだとおー！」

「いやだー！！」

ねずみたちが飛びかかろうとしたそのとき

二人の前に現れたのは・・・

ワクワクドキドキ おいしいの大冒険がはじまる。

終演後に、公開バラシをやるよ。  
人形劇のひみつがわかるぞ！手伝い歓迎。ちびた

■ちびた（ながたひとし）さんにこの作品の魅力を知りました！（2023/3/22 中四国企画のための交流会）

### ★「おいしいのぼうけん」を人形劇にしようと思った理由

この物語の飛躍の仕方が人形劇的。原作者の古田さんや田畑さんは「できるだけリアルな子どもを描きたい。」おっしゃっています。こうあってほしいのではなく、今あるホントにリアルな子どもたちを描くーその思いから描き出されるものをつくりたいなと思いました。

### ★人形劇で「おいしい」をどう表現するか？

最初にぶち当たったのが「おいしい」。見えないとわからない、だから、取っ手の部分だけ作りました。おいしいの上下だけで演じるのは面白くない…ならば、左右に分けちゃおう!!これが子どもたちの想像力に対応できるか？できちゃったんです！ひとえに観ている人の想像力なんです。これには、驚きました。

### ★物語のスピード感

なんせ原作は 80 ページもある大作だから、観ている人がよそ見する暇がないほどのスピード感。ネズミばあさんとのたたかい場面は見ものです。さらにパワーアップしてお届けします！

### ★魅力ある音楽のひみつ

繰り返しはありますが、2 曲しか歌わないのにミュージカルっぽいといわれます。なぜだろうと考えると、場面転換の音楽がテーマ曲をアレンジしているものだったり、コーラスがやたら複雑だったり、同じ曲の中で、さとしとあきらの歌詞が違ったりと音楽担当のシモシュさんがそういう作りが好きなんです。演じる方は迷惑なんですけど(笑) だから音楽も魅力たっぷりですよ。

注：バラシ=人形劇のセットを片付けること



出演/ 加藤K子・ながたひとし・森たまみ・松田みほ子(左から)

### ★キーワードは「手をつなぐ」

「さくらほいくえんには、こわいものがふたつあります。ひとつはおしいれで、もうひとつはねずみばあさんです。」の語りから始まり、「さくらほいくえんには、楽しいものがふたつあります。ひとつはおしいれで、もうひとつはねずみばあさんです。」で終わる。

この間に大冒険がある。子どもたちは、身体で反応するんです。怖い場面になると、ひきながら固まり、その場面が終わると、広がりながら前に寄る。舞台から見ているとおもしろいですよ～。怖い…それでも観たいんですね。劇中になんども「手をつなご！」っていう台詞が出てきます。この言葉が子どもたちに伝わりとうれしいですね。